

## 平成27年度 地域行政懇談会会議録

会議名	第4回 地域行政懇談会
日時	平成27年7月30日(木) 午後7時00分～午後8時30分
会場	三島市民体育館 2階大会議室
コーディネーター	静岡大学人文社会科学部法学科教授 日詰一幸氏
市出席者	豊岡市長、中村副市長、関係部長、関係課長
事務局	行政課
次第	1 開会 2 市政における中長期の課題 3 参加者による意見交換会 コーディネーター 日詰氏 4 閉会
参加者数	25人

### 1 開会

(1) 懇談会の趣旨と進め方について説明

(2) コーディネーター及びその他出席者(市職員)紹介

(趣旨)

三島市の中長期的な課題へ対応するために、市民の皆様にも、市が置かれている現状や課題を認識していただくとともに、市民と行政が協働で知恵を出し合い、対応策や解決策を検討していくことを目的に開催するものです。

(コーディネーター紹介)

静岡大学 人文社会科学部 法学科教授の日詰一幸教授。

先生の専門は「行政学」で市民参加に係る研究もしており、これまでに、三島市の「女性まちづくり講座」の講師や生涯学習推進プラン策定懇話会の委員をお願いしている。

(市職員紹介)

続いて、出席している市の職員を紹介。

豊岡市長、中村副市長、市役所の各部の部長、関係課長

(進め方)

次に、本日の懇談会の進め方について簡単に説明する。

この後、市長から市政における中長期の課題について、三島市の置かれている現状を踏まえ説明する。説明終了後、コーディネーターの日詰教授に進行をお願いし、課題の現状に関する意見交換を行っていただく。意見交換にあたっては、掲示してある「会の進め方」「本日の話し合いの考え方」に留意いただきたい。

## 2 市政における中長期の課題

市長説明 ※パワーポイント資料による

- ①健康施策の向上 ～みんなが健康づくりに取り組むためには～
- ②人口減少対策 ～子育てしやすい環境づくりのためには～

## 3 参加者による意見交換会

C：コーディネーター P：参加者 A：回答

### I 健康施策の向上

C 豊岡市長からの説明にもあったように、健康に無関心の方が7割はいると言われているが、健康づくりというのは三島市にとって非常に重要な取り組みである。

その健康づくりをより一層強化するためには、健康問題に無関心な方々の意識を高めていくことが大事ではないかと思う。

そのためには、どのような取り組みができるのか、皆さんからアイデアを頂きたい。

P 先程の説明では、健康に対するプラスの情報はあったが、例えば、平均寿命に対して健康寿命との差が大きいと、その間に病気になるリスクが大きくなるといったような、逆にマイナスの情報を流す取り組みも必要ではないかと思う。

P 健康診断では、バイタルの測定や血液検査などが必ず行われるが、病院に通うときも必ず同様の測定や検査が行われることから、医師との相談で病院のデータを市に提供し、市がそのデータを管理することができれば、わざわざ健康診断に行かなくても済むし、健康診断に要する費用も軽減されるのではないかと思うので、そういうことも考えていただけたらと思う。

C もしそれが可能であれば、個人のデータが蓄積されていくことになるので、よいことだと思う。

P 健康への取り組みを市は色々やっていると思うが、「7：3の法則」のうち、「7」の人はなかなか動かないと思うので、自分たちを追い込むためにネガティブなデータをあえて流す逆指導も必要なのではないかと思う。

例えば、「こういう暮らし方をすると楽しいけれど早く寿命が来ますよ」といったような情報を流すなど、言い方は悪いが、ある程度「脅す」ことも必要なのではないか。

C 脅し方も難しいところがあるかもしれないが、最初の方のご意見と同じように、「こういうことをするとこういう状態になってしまう」ということを積極的に流して危機感を煽るやり方もあっていいのではないかということだと思う。

P 我々の地区では、公民館を中心に9つのプログラムを実施しているが、その中で3つほど隆盛のものがある。その3つは、介護予防体操、グラウンドゴルフ、輪投げとなっている。

これらがどうして隆盛になってきたかと言うと、ひとつは指導して下さる先生が非常に魅力的であるということと、その体操をやれば介護予防につながるということが口コミで広がり、3年間で10人が20人になり、今は50人くらいが参加している状況である。

こういうイベントに関しては「まちのしおり」というものを作成し配布しているが、それよりも口コミの方が効果は大きいと感じている。

C ちなみに、その指導者の方はどういう方で、町内にお住まいになられている方なのか。

- P 元小学校教諭の方で、我々の町内にお住まいだが、他の地区に出向いての指導もされている。
- P 私は67歳で、糖尿病になって25年が経過しているが、先日、吉町田の保健委員会の会合に出席したとき、参加者が少なかったことから、私がなぜ糖尿病になったかを1時間ほどお話した。
- 今なぜ糖尿病患者が多いかという、昔はトイレが汲み取り式だったため、汲み取り業者が臭いで教えてくれたものだが、今は水洗トイレで下水道に流れてしまうから分かりにくくなったという部分もあると思う。
- また、注射針の流通が少なくなっているそうだが、中国には糖尿病予備軍が1億人ほどいるようで、中国人の富裕層が糖尿病になると大量に買い占めるという話もあるため、患者としてはそのような心配もある。
- C そういう病気になられた体験者が語り部になってお話をしていただくことは、非常に重みのあることだと感じる。
- もう1点の特定健診の受診率を上げていくためにどのような取り組みができそうなのかということについて伺いたい。
- P 毎年定期的に人間ドックを行っており、たまたま3年前にすぐに病院に行きなさいと言われ、実際問題として心臓の右側が完全閉鎖、左側が2カ所狭窄、真ん中だけが正常という診断であったが、医者からは、「この状態で何も苦しくなかったんですか」と言われた。
- やはり健康というものは、あくまでも自分で気を付けていかなければならないものだと改めて感じた。自分は健康であると思っても、どこかで引っかかる危険性もあるということを常に頭に入れておかなければならないと思う。
- C 今のお話も一種のネガティブキャンペーンにつながるものだと思う。
- P 私はここ2、3年、老人会の面倒を見させてもらっている関係で老人福祉センターの健康測定を毎月行っており、多くの人は測定結果を手帳につけて一喜一憂しているが、そういうものを大いに利用した方がよいのではないかと思う。
- C そういう結果を基にして、お互いに楽しみ合える健康づくりというのもいいことだと思う。
- P 健康づくりのデータ管理についてであるが、将来的にはマイナンバー制度が導入されると個人情報管理と健康管理が一体化して進められる可能性もあり、データ管理において個別医療というものが医者の世界でも盛んになっていく見込みであるというような話も聞いているので、市の方でも、国や社会の動きと並行した形で市民一人一人の健康管理をやっていただく方が、いちいち健康診断を受けなくても、自己管理で医者に通っている環境の中でもデータを拾って活用できるため、いいのではないかと感じている。
- C この秋からマイナンバー制度が導入されるが、それを上手に活用し、個別に自分自身でも健康管理できるような仕組みを作っていくことも素晴らしいことであると思う。
- P 自分は市民体育館の近所に住んでいるが、駐車場がいつも混雑している状況である。
- 健康づくりを行うには、牛乳を飲むより牛乳配達の方がよいという話もあるが、これは真理であると思っており、そう考えると、例えば、半径2km以内に住んでいて体育館を利用する人は、歩いて来ることを奨励したらどうかと思う。
- さらには、歩いてきた人には（健幸マイレージの）ポイントを2倍にするなどの特典を与えれば、駐車場を利用する人も減ると思われるので、使わなくなった駐車場の土地を分譲すれば、市の財源にも貢献できるのではないかと思う。
- C なるべく歩くという習慣をつけるということが、とても大事だと思う。

## Ⅱ 人口減少対策

C 次に、人口減少対策について、国勢調査によると三島市では平成17年をピークに徐々に人口が減少しており、平成47年の推計では10万人を切ってしまうというデータがある。

そこで、人口減少や少子高齢化の問題を食い止める方法を考えていかなければならない訳だが、2つ紹介していただいた方法があり、ひとつは、若い人の働く場所を確保する取り組み、もうひとつは、子どもを増やしていくための取り組みである。

この取り組みをより一層効果的に進めていく必要があるが、その前に、三島市への移住を進めるためにはどのような取り組みが必要なのか、何か思いつくことがあればご意見をいただきたい。

P もしかすると設置条件があって難しいのかもしれないが、静岡や浜松と比べて東部地区は大学が少ないため、できれば国公立の大学を誘致し、大学生が増えれば、若い人向けの商売も繁盛するということが期待できるのではないか。

P 子育て支援の観点から、娘が現在つくば市に住んでいて、出産のため里帰りで三島に戻ってきている。上の子が2歳9カ月で、その子を遊ばせるために色々なところへ連れて行っており、家からは北上公民館が近いので連れて行くが、遊ぶものが何もない状態である。

公民館に来る若いお母さんにどこで子どもを遊ばせるかを聞くと、清水町や函南町、長泉町などという答えがあり、三島市の名前が出てこない。本町子育て支援センターはどうですかと聞くと、駐車場代がかかるということであり、生涯学習センターについても狭いという声がある。

子どもが一番喜ぶのが、函南の「知恵の和館」であり、プレイスペースは北上公民館とあまり変わらないため、自分が北上公民館をコーディネートしたいくらいだが、本当にもったいないと感じている。せっかくスペースがあるので、函南に負けなくらい充実させてほしい。

また、つくば市の子育て支援センターにも遊ぶところがたくさんあり、写真を撮ってきたので、後ほど見ていただきたいと思う。

P 大学誘致の話に関連して、三島市には遺伝学研究所があるが、新たにこのような研究機関を誘致し、そこで働く研究員の方に長く住んでもらうのもひとつの方法であると思う。

P 子どもの声がまちから聞こえなくなったと感じている。我々が子どもの頃は道路で遊んでいたが、今はそれがない。

少し乱暴な提案になるが、市が管理している道路があるため、今ある道路を歩行者天国化し、ここからここまでの区間は子どもが自由に遊んでいいですよということをやっていけば、外で遊ぶ子どもも増えるのではないかと思う。

もうひとつは、近所に小さな公園があるが、公園の中で子どもが意外と遊ばないため、子どもが集団で遊べるようなスペースは街中にもあると思うので、そういうところを開放し、活用していけば、子どもの声が聞こえるようになると思う。

C 道路の空間をプレイスペースとして使うというのは、非常に面白い提案だと思う。

P 居住者不明、所有権不明の空き家について、昔は専従者特権ということで、いきなり住みだして占領してしまうがために特権を主張するというケースがあったが、もしそれが裁判上で停止措置となって、その所有権が分からないような物件があったら、市の公認の専従者権みたいなものをあえて与えて、貧しい方や一時的な退去避難住民のような方を住まわせる措置ができればよいと思う。一時的にもそこに人が入れれば、その物件の管理ができるようになるため、そうすれば、低所得者への対策にもなり、住む場所のない子育て世帯への住宅の提供も可能になると思われる。

- C 空き家の活用は最近クローズアップされているため、参考にしていただけたらと思う。
- P 東京への一極集中は止められない状況であり、通勤1時間圏内で考えると宇都宮などが競争相手になるが、住むところとしては三島が一番であると感じている。  
まちの品格を高め、田園調布のような魅力のあるまちづくりを進めていけば、移住から定住につながるのではないかと思う。
- C 先ほど、子育て支援も大事であるという話があったが、その観点からはどうか。
- P 子育て経験を思い出して考えることがあるが、子育て中の母親は孤独であり、悩み事も多いと思うので、孤独な子育てがもう少し楽になるような、お母さん同士のサークルをつくって、気軽に参加できるようなものがあると、お母さんたちの気持ちが楽になったり、また、近所に子育て経験がある方がいて、少し預かってもらえたりするところがあれば助かると思う。周りの人のちょっとした心遣いや子育てを応援する雰囲気があるとよい。
- C 意外とお母さん方のサークルというのはあると思うが、十分に知られていないと思われる。  
逆に、若いお母さんだけになってしまっているもので、そこに、年齢を重ねた方が入ることにより様々な年齢階層の方がいると、サークルに厚みが出てくるという気がする。
- A 先ほどの説明の補足になるが、「子どもは地域の宝事業」について、その町内で生まれたお子さんを町内会や自治会でイベントを開きプレゼントをすることにより、地域全体で子育てをサポートしていくという取り組みを3年間ほど実施してきたが、おっしゃるように、地域でサポートをしていきたいという要望を受けてその事業を実施してきた経過がある。  
また、子育てサークルに関して、広報みしまの8月1日号に市の補助金を受けている子育てサークルを認定したという記事も出ているため、ご覧いただきたいと思う。
- P つくば市で友達もいない中1人で子育てをして、子育て支援センターを探して毎日のように通ったりしていたが、あるスーパーで2,000円分買い物をする、子どもを1時間預かってもらえるといったサービスを行っているところがあるそうなので、そういう場所があればお母さんも助かると思う。
- C 今日は皆さんの意見を頂きありがとうございました。特に健康づくりに関しては、もしこういう状態を放置したままにすると、こういう悲惨な事態になるというように、語り部の方が実際に多くの方に話をさせていただくと、カンフル剤になっていいのではないかというご意見もあったが、そうすれば、7割の無関心層の方にも響くものがあるのではないかと感じた。  
また、人口減少対策についても、とにかく子どもの数が増えることがとても大事であるということ、子どもたちの遊べる環境を充実していくことが大事であると思うし、東京から1時間圏にある地の利を最大限に生かしたまちづくりを進めていくことも大事だということが発言の中にあっただと思う。  
皆様のご提言が、今後の市政の中に反映していただけるよう市の職員の皆さん方をお願いしたいと思うし、豊岡市長にも聞いていただいたので、何らかの形で反映されていくものと思う。

#### 4 閉会の挨拶

(市長)

大変熱心にまた活発にご意見をお出しただいて感謝申し上げます。

なお、先ほどお話のあった本町子育て支援センターについてであるが、施設の利用自体は無料

であり、有料の駐車場もお買い物をする無料になるため、お話のあったスーパーで2,000円分買い物をする子どもを預かってもらえる事例と発想は同じである。

私からひとつお願いしたいことは、本日お手元に差し上げた資料に関して、説明させていただいた内容について、お友達やご近所の方、それぞれの団体の皆様方に、市はこんなことをやっているということを是非お伝えいただきたいと思う。「広報みしま」だけでは伝わらない部分も多いと思うので、皆様からご紹介いただけると幸いに思う。

今日は暑い中、また大変お疲れのところお集まりいただいたことに重ねて感謝申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。

-----閉 会-----